

学部内の別課程履修で同一の小学校教員免許を 取得した学生の特徴の違い

深谷 和義, 小杉 裕子 (椛山女学園大学)

学部内にある二つの課程で小学校教員免許が取得できる大学において、選択で取得する課程と必修で取得する課程それぞれの学生の大学での成績等の学習成果、進路状況の特徴等を調査・分析した。その結果、両課程で受験時の評定値にはあまり違いがなかったが、選択で取得する課程の方が大学での平均履修科目数が 3 科目ほど多いにもかかわらず GPA は高かった。進路先が小学校の卒業生の割合は必修で取得する課程の方がかなり高かったが、正規の教員になる割合は選択の課程の方が高かった。これらを踏まえたうえで、同一免許が取得できる二つの課程のどちらを受験しようかを検討している受験生向けに、履修科目数の違いや小学校教員になっている割合などを説明することで、より適切に課程を選んだ受験が期待できる。

キーワード：小学校教員免許，別課程，評定値，GPA，進路

1 はじめに

幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教員になるには学校の種類に応じた教員免許が必要である。そのため，教職課程のある大学で定められた科目及び単位を修得しなければならない。文部科学省（2023）の調査によると，いくつか種類がある教員免許の中で最も人数が多い普通免許の一種免許の場合，令和 3 年度における幼稚園，小学校，中学校，高等学校の授与件数は，それぞれ 17,234，22,903，38,292，48,379 となっている。中学校及び高等学校は学校の種類に加えて教科ごとに免許が分かれていることを踏まえると，小学校教員免許が同一の教員免許取得者として最も多いといえる。

2022 年 4 月 1 日現在で，小学校教員免許取得が可能な大学は 250 校ある（文部科学省，2022）。その中には複数の学部や学科，専攻，コースなどの別課程において免許取得が可能な大学も含まれている。別課程において同一の免許取得が可能な場合，どちらに入学しても同じ進路先となる可能性が生じる。

筆者らはこれまで教員養成・保育士養成課程の教育学部において，取得免許が多い学生の方が大学での GPA が高いことを調査により示している（深谷・小杉，2023，2024）。一方，同じ学部内に同一の教員免許を取得できる課程が複数ある大学において，どちらの課程で学ぶかで入学後の学習成果や卒業してからの進路状況に違いがあるかどうかは調査・分析していない。これらを明らかにすることは，受験生に対して，そのような学部や学科等を受験する際の選び方に役立つと考えられる。

本研究では，学部内の別課程を履修して，同一の教員免許を取得している学生において，受験時と大学での成績，及び進路状況の特徴等を明らかにすることを目的とする。

2 調査対象学部

2.1 概要

本研究における調査の対象学部は，中規模私立女子大学 A 大学の教育学部である。2023 年 5 月 1 日現在で，大学の収容定員 5,464 名，教育学部の収容定員 692 名となっている。

教育学部は 2007 年度に設置され，履修する課程が大きく分けて二つあり，募集も別で行っている。一つは，保育士・幼稚園教員養成を主とする「保育・初等教育専修」で，もう一つは，小中学校教員養成を主とする「初等中等教育専修」である。専修ごとの入学定員は保育・初等教育専修 90 名，初等中等教育専修 80 名で，学部全体では 170 名である。その他に 2 年次あるいは 3 年次編入学試験等での若干名の入学定員がある¹⁾。ただし，2011 年度入学者まで初等中等教育専修は 67 名，2016 年度入学者まで保育・初等教育専修は 80 名の入学定員であった。以下において，保育・初等教育専修の課程を「課程 A」，初等中等教育専修の課程を「課程 B」と記載する。

課程 A と課程 B には，いずれの課程においても取得可能な資格・免許もあれば，片方の課程のみで取得可能なものもある。各課程において取得可能な教員免許を表 1 に示す。ここでは，教員に準じた職種とみなして保育士資格も含めている。「全員」は原則として

全員取得することを必修としている免許、「希望」は希望者が取得可能な免許の意味である。なお、「中高（副免）」は他学部で受講することにより取得できる「中高（国語）」「中高（英語）」等の免許であり、教科ごとでの人数が多くないことから教科の区別をせずまとめて記載している。

表1に示すように、課程Aでは、原則として「保育士」と「幼稚園教員」が必修であり、課程Bでは「小学校教員」が必修である²⁾。その他はすべて希望者のみが取得可能な免許である。

表1 各課程において取得可能な教員免許

	保育士	幼稚園	小学校	司書 教諭	中高 (数学)	中高 (音楽)	中高 (副免)
課程A	全員	全員	希望	希望			希望
課程B		希望	全員	希望	希望	希望	希望

2.2 入試区分別の人数

対象学部の入学試験には、2023年度入試を入試日程の順に示すと、学校推薦型選抜として「併設校制推薦入試（20，20）」³⁾「指定校制推薦入試（25，19）」があり、一般選抜として「一般入試A（35，28）」「大学入学共通テスト利用入試A（2，4）」「一般入試B（6，5）」「大学入学共通テスト利用入試B（1，2）」がある⁴⁾。また、受験者は多くはないが、他に「音楽実技特別推薦（0，1）」「社会人入学特別選抜（1，1）」がある。それぞれの（ ）内には各入学試験の募集人数を課程A，課程Bの順で記載している。

「併設校制推薦入試」と「指定校制推薦入試」では、調査書に記載された「全体の評定平均値」（以下、単に「評定値」と記す。）に基準を定め、志望理由書等の「出願書類」「調査書に基づく学力」「面接」で総合的に判断して選抜する。一方、「一般入試A」「大学入学共通テスト利用入試A」「一般入試B」「大学入学共通テスト利用入試B」ではいずれも同一の出願要件であり、学力試験の結果で選抜している。ただし、「一般入試A」「一般入試B」は「大学個別試験」を、「大学入学共通テスト利用入試A」「大学入学共通テスト利用入試B」は「共通テスト」の得点を学力試験として扱っている。「大学個別試験」には公民がないなど、若干利用科目が少ないが、同時期に実施する「一般入試A」と「大学入学共通テスト利用入試A」、あるいは「一般入試B」と「大学入学共通テスト利用入試B」を多くの受験生が併願してい

る。また、「音楽実技特別推薦」では「出願書類」「小論文」「音楽実技」「面接」で、「社会人入学特別選抜」では「出願書類」「小論文」「面接」でそれぞれ総合的に選抜している。

3 調査対象者

3.1 入試区分ごとの課程別の人数

対象学部が設置された2007年度入学生が卒業した2010年度から2022年度末までの卒業生は2,270名である。まず、この2,270名に対して、入試区分ごとの人数を表2に示す。入試区分は2.2節で示した順に記載している。ただし、「一般入試A」と「大学入学共通テスト利用入試A」は合わせて「前期入試」，「一般入試B」と「大学入学共通テスト利用入試B」は合わせて「後期入試」とする。また、「他」の区分には「音楽実技特別推薦」「社会人入学特別選抜」等が含まれている。表中及び以下においては省略した名称で示している。なお、「他」の人数はそれ以外の入試区分と比較して非常に少ないため、以下の調査結果における分析では扱わない。

表2 入試区分ごとの課程別の卒業生数

入試区分	課程A	課程B	全体
併設	253	229	482
指定	283	244	527
前期	487	487	974
後期	112	132	244
他	3	40	43
全体	1,138	1,132	2,270

3.2 取得免許ごとの課程別の人数

卒業生の卒業時における取得免許ごとの人数と各課程または全体の総人数に対する割合を表3に示す。「数学」「音楽」「副免」は中学校あるいは高等学校の免許である。「数学」「音楽」「副免」を取得したほとんどの卒業生は中学校と高等学校の両方取得しているが、その場合も1名と数えている。「副免」は他の学部で履修することにより取得する免許を意味しており、「国語」「社会」「英語」等の教科を区別せずに合わせた人数で記載している。

表3より、課程A，課程Bともに取得者が多い免許は、「幼稚園」と「小学校」の二つである。中でも「小学校」は課程Bでは1,132名全員、課程Aでも1,138名中の8割近くになる890名が取得している。

教員採用試験の要件に、幼稚園教員は幼稚園免許と保育士資格の併有が求められることが多くなっているが、小学校教員は小学校免許のみで支障なく採用される。それでも、小学校教員になるのであれば、中高免許を取得していた方が役に立つ可能性があると考えられる受験生もいる。そのため、将来、幼稚園教員か小学校教員かを決めかねる受験生の中には、どちらの課程を選べば良いかを迷う者もいる。そのような者に対し、必修と選択との違いがあるものの、同一の小学校免許を取得できる二つの課程のどちらを選ぶかを決めるための参考となる違いを明らかにする必要がある。そこで、以下においては、小学校免許取得者である卒業生の課程 A における 890 名と課程 B における 1,132 名の計 2,022 名を調査対象として課程による違いを扱う。

表 3 取得免許ごとの課程別の卒業生数

免許	課程 A	課程 B	全体
保育士	1,137 (99.9%)	0 (0.0%)	1,137 (50.1%)
幼稚園	1,138 (100.0%)	485 (42.8%)	1,623 (71.5%)
小学校	890 (78.2%)	1,132 (100.0%)	2,022 (89.1%)
司書教諭	85 (7.5%)	171 (15.1%)	256 (11.3%)
中高(数学)	0 (0.0%)	319 (28.2%)	319 (14.1%)
中高(音楽)	0 (0.0%)	227 (20.1%)	227 (10.0%)
中高(副免)	4 (0.4%)	189 (16.7%)	193 (8.5%)

4 結果と考察

4.1 課程 A の入試区分ごとの小学校取得の有無

二つの課程の比較の前に、課程 A では小学校免許取得が選択であることから、入試区分の違いによる小学校免許取得者の傾向を明らかにするために、入試区分ごとの取得の有無の人数の割合 (%) を帯グラフで図 1 に示す。入試区分は 3.1 節で述べたように人数が少ない「他」を除く 4 つを扱っている。

図 1 において「小学校取得あり」の割合をみると、学校推薦型選抜である「併設」「指定」では 70% 強に留まっているのに対して、一般選抜である「前期」「後期」では 80% 強であり、約 10 ポイント高くなっていることがわかる。一般選抜での入学者の方が小学

校教員免許を取得している学生が多い傾向にあるといえる。

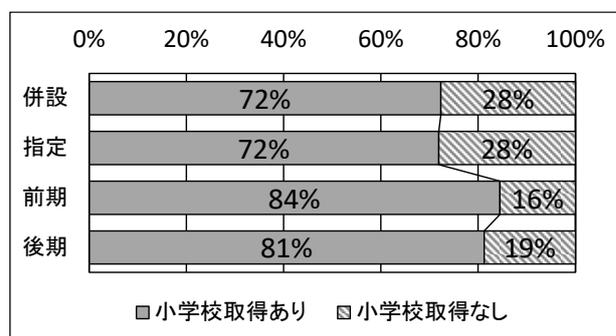


図 1 課程 A の入試区分ごとの小学校取得の有無

4.2 課程ごとの平均履修科目数

調査対象である小学校教員免許を取得した卒業生の課程別での平均履修科目数を表 4 に示す。平均履修科目数は卒業までに履修した合計の科目数の平均で求めている。() 内には、標準偏差を記載している。

平均履修科目数を比較すると、課程 A の方が課程 B よりも 3 科目ほど多くなっている。課程 B では小学校教員免許のみが必修であるのに対して、課程 A では保育士と幼稚園教員免許の二つが必修となっていることが原因だといえる。課程 B の標準偏差が大きいのは小学校教員免許のみ取得の場合は単位数が少なくて済む一方で、小学校教員免許に加えて「数学」「音楽」等の中高教員免許を取得する場合は非常に多くの単位取得を必要とするからである。なお、対象学部で必修となっている科目数は入学年度によって若干違いはあるが、課程 A では保育士と幼稚園教員免許に加えて小学校教員免許で必要な科目を中心におおよそ 60 科目、課程 B では小学校教員免許で必要な科目を中心におおよそ 30 科目である。選択を含めた卒業に必要な単位数はどちらの課程も 126 単位であり同じなので、課程 B の方が選択科目を多く受講することになる。なお、ほとんどの科目は 2 単位であり、一部の演習科目で 1 単位のものや、教育実習や卒業研究のように 2 単位より多い科目があるものの、126 単位はおおよそ 63 科目程度である。

表 4 課程ごとの平均履修科目数

	課程 A	課程 B	全体
科目数	83.0 (4.42)	79.9 (9.58)	81.3 (7.89)

注) () 内は標準偏差

4.3 入試区分ごとでの課程別の受験時評定値

入試区分ごとでの課程別の入学前の学力を評価するため、受験時評定値の特徴を明らかにする。受験時評定値を入試区分と課程で分けた平均値を表 5 に示す。() 内は標準偏差である。入試区分ごと、課程ごとでの全体の値も示している。なお、学校推薦型選抜では過去の入試における入学者数等を踏まえて、出願要件として最低評定値を決めており、結果的に、表 5 における一般選抜での平均値におおむね近い程度の具体的な評定値を出願要件として該当の高校に示している。指定校制推薦で最低評定値を若干変えたことがあるが、高校での推薦段階でおおよそ一定水準の選抜が継続できている。また、一般選抜において中心となる一般入試 A の実質倍率がおおよそ 3 倍以上を確保できている。従って、以下において、選抜機能が働いていると仮定する。

表 5 より、入試区分で比較すると、いずれの課程においても出願要件に最低評定値を設定している学校推薦型選抜の方が一般選抜よりも高くなっている。それに対して、課程別で比較すると、「併設」では「課程 A」が明らかに良いが、全体で見るとあまり大きな違いはない。また、課程に関わらず、一般選抜の方が学校推薦型選抜よりも標準偏差が全般的に若干大きく、個人差が少しあるといえる。

以上の結果から、課程の違いによって入学前の学力にさほど大きな違いはみられないといえる。

表 5 入試区分ごとでの課程別の評定値

入試区分	課程 A	課程 B	全体
併設	4.03 (0.36)	3.88 (0.42)	3.95 (0.40)
指定	4.03 (0.31)	4.02 (0.37)	4.02 (0.34)
前期	3.73 (0.50)	3.68 (0.52)	3.70 (0.51)
後期	3.60 (0.48)	3.61 (0.60)	3.61 (0.55)
全体	3.85 (0.47)	3.79 (0.50)	3.82 (0.49)

注) () 内は標準偏差

4.4 入試区分ごとでの課程別の大学 GPA

入試区分ごとでの課程別の大学における学力を評価するために大学での GPA を扱う。取得する免許や選択状況によって履修する科目に違いがあるが、卒業

時の全科目における GPA を入試区分と課程で分けた平均値を表 6 に示す。() 内は標準偏差である。

いくつかの先行研究では学校推薦型選抜での入学者の方が全体では低い(例えば、石井, 2014; 小松, 2011)とされているが、本研究での対象学部では一般選抜と比較して低くはない。それに対して、課程ごとで比較すると、どの入試区分においても課程 A の方が高くなっている。本研究では別課程履修で同一の小学校教員免許取得した学生の比較を扱っている。そのため、課程 A では必修の保育士、幼稚園教員免許に加えて小学校教員免許を取得した学生のみを対象としているのに対し、課程 B では必修の小学校教員免許のみを取得した学生と小学校に加えて幼稚園、あるいは小学校に加えて中高免許を取得した学生が含まれている。筆者らのこれまでの研究で明らかにしたように、取得免許が多い学生の方が大学での成績が良いことで調査対象全員が複数免許を取得している課程 A の GPA の方が高くなっていると考えられる(深谷・小杉, 2023, 2024)。また、入試区分に関わらず課程 B の標準偏差の方が大きいのは、小学校教員免許のみを取得した学生は比較的 GPA が高くなく、中高教員免許等も取得した学生は GPA が高くなっており、両者が混在しているからだと考えられる。

表 6 入試区分ごとでの課程別の GPA

入試区分	課程 A	課程 B	全体
併設	2.83 (0.28)	2.70 (0.38)	2.76 (0.34)
指定	2.89 (0.26)	2.65 (0.39)	2.76 (0.36)
前期	2.84 (0.29)	2.70 (0.41)	2.76 (0.37)
後期	2.81 (0.30)	2.60 (0.42)	2.68 (0.39)
全体	2.84 (0.28)	2.68 (0.41)	2.75 (0.37)

注) () 内は標準偏差

4.5 科目別の GPA

大学での学力の詳細を評価するために、課程 A、課程 B における科目別での受講者の GPA の平均値を棒グラフで図 2 に示す。バーで示しているのはそれぞれの標準偏差である。ここでは小学校教員免許取得の必修科目で調査対象者全員が受講している 20 科目を扱っている。科目名は入学年度によって若干異なってい

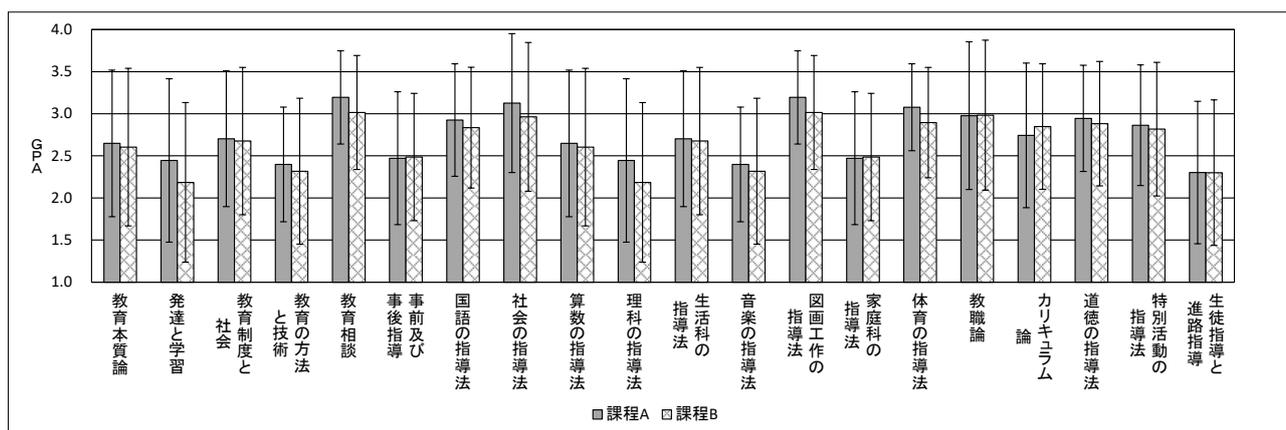


図2 小学校の必修科目における課程別のGPA

るものもあるが内容はほぼ変わっていない。なお、「事前及び事後指導」は教育実習の一部として本学部教員が担当している科目である。

図2より、4.4節において入試区分別で述べたのと同様に、多くの科目で課程Aの平均値の方が高くなっており、課程Bの標準偏差の方が大きくなっている。課程Bの平均値の方が高い科目は「事前及び事後指導」「家庭科の指導法」「カリキュラム論」の3科目のみである。これらの科目の標準偏差はいずれも課程Aの方が大きくなっている。「カリキュラム論」は課程Aでは保育士免許に必要な「教育課程論」が同じ2年生の必修科目であり、内容的に共通点と相違点があることから理解しにくくなっている学生がいると推察できる。「家庭科の指導法」は小学校高学年の5,6年生のみが学習する教科であることから他の科目と傾向が異なると考えられる。また、「事前及び事後指導」に関しては、教育実習の一環であることから、実習に関わる内容が多いことで他の科目と異なっていると考えられる。

4.6 進路先ごとの課程別の人数、評定値、GPA

小学校教員免許を取得した卒業生の進路先ごとの人数を表7に示す。表7において、「小学校」「幼稚園」「中学高校」「保育所等」は学校等の種類を示す大区分である。「中学高校」は「中学校または高等学校」を示し、「保育所等」には「保育所」の他に「こども園」「児童養護施設」等を含んでいる。これらの大区分は、それぞれ、公立の専任を「公立小」、公立の期限付を「公立小期限付」、私立を「私立小」のような小区分に分けている。私立においては数年の期限付を経て専任とする学校等が多いため、専任と期限付

とを区別していない。「企業」と「一般公務員」は合わせて「企業・公務員」、大学院や専攻科への進学を「進学」、「就職希望なし」「不明」「未定」を「その他」として全部で15個に分類している。それぞれ人数と、大区分では全体に対する割合も示している。なお、小学校のみ小区分ごとでも割合を示している。

表7より、大区分でみると、「中学高校」はほとんど課程Bのみ、「保育所等」はほとんど課程Aのみである⁵⁾。これは、表1で示した取得可能な免許や表3で示した取得免許ごとの卒業生数から妥当な数だといえる。

いずれの課程も小学校教員免許を取得しているにもかかわらず、課程Bでは約3分の2の卒業生が小学校を進路先としているのに対し、課程Aでは1割強しかいない。課程Aでは小学校教員免許を取得しているものの小学校教員になる意志が強くない学生が多いといえる。このことは、同時に取得している保育士資格と幼稚園教員免許に関わる保育所と幼稚園を進路先とする学生が合わせて約4分の3と多いことからわかる。一方、課程Bでは学校及び保育所ではない「企業・公務員」「進学」「その他」が合わせて4分の1程度おり、課程Aが8分の1弱であるのに対して2倍以上となっている。

小学校の小区分での割合を比較すると、課程Aでは「公立小」の割合が多くなっている。これは、課程Aでは小学校を進路先としている学生の中で採用試験の合格率が高く、正規の小学校教員になっている割合が多いことを意味している。ただし、私立幼稚園や私立保育所の採用試験は公立小学校よりも時期が遅いことから、課程Aでは小学校が不合格の場合に進路を幼稚園・保育所等に変更している者もいる。

表 7 進路先ごとの課程別の卒業生数

進路先		課程 A	課程 B	全体
小学校	公立小	89 (10.0%)	504 (44.5%)	593 (29.3%)
	公立小期限付	14 (1.6%)	188 (16.6%)	202 (10.0%)
	私立小	2 (0.2%)	33 (2.9%)	35 (1.7%)
	小計	105 (11.8%)	725 (64.0%)	830 (41.0%)
幼稚園	公立幼	18	1	19
	公立幼期限付	2	1	3
	私立幼	198	40	238
	小計	218 (24.5%)	42 (3.7%)	260 (12.9%)
中学・高校	公立中高	1	14	15
	公立中高期限付	0	49	49
	私立中高	0	12	12
	小計	1 (0.1%)	75 (6.6%)	76 (3.8%)
保育所等	公立保	354	4	358
	公立保期限付	12	0	12
	私立保	91	3	94
	小計	457 (51.3%)	7 (0.6%)	464 (22.9%)
企業・公務員	84 (9.4%)	183 (16.2%)	267 (13.2%)	
進学	6 (0.7%)	36 (3.2%)	42 (2.1%)	
その他	19 (2.1%)	64 (5.7%)	83 (4.1%)	
全体	890	1,132	2,022	

進路先ごとで課程による学力の違いがあるかを評価するため、進路先ごとの課程別の評定値を表 8 に示す。同様に、GPA を表 9 に示す。これらにおいて、一部の小区分では人数が少ないことから、すべて大区分での比較とし、また、片方の課程で非常に人数が少ない「中学高校」「保育所等」は除いている。

表 8 より、受験時の評定値は「小学校」「幼稚園」では課程 A の方が高いが、それ以外の区分では課程 B の方が高くなっていることがわかる。一方、表 9 より、大学での GPA ではすべての区分において課程 A の方が高い。ここでも免許を多く取得している学生の学習意欲が高いことで良い成績を上げているといえる。竹

内 (2019) は GPA が高いと教員採用試験の合格率が高いと述べているが、同一課程の学生のみを対象とした調査結果である。本研究における表 7 での結果を踏まえると、取得できる免許が異なる別課程の学生において、同一の小学校免許を取得している学生を比較した場合に、GPA の高い課程の学生の方が教員採用試験の合格率が高いといえる。なお、課程 A で GPA が一番高い区分は「小学校」であり、課程 B では「幼稚園」である。これは、他の課程で必修となっている免許を自ら希望して取得している学生が意欲的に勉強していることを意味していると考えられる。

表 8 進路先ごとの課程別の評定値

進路先	課程 A	課程 B	全体
小学校	3.87	3.79	3.80
幼稚園	3.86	3.79	3.85
企業・公務員	3.76	3.79	3.78
進学	3.65	3.73	3.71
その他	3.57	3.69	3.66
全体	3.85	3.79	3.82

表 9 進路先ごとの課程別の GPA

進路先	課程 A	課程 B	全体
小学校	2.91	2.72	2.74
幼稚園	2.81	2.76	2.80
企業・公務員	2.79	2.59	2.66
進学	2.88	2.67	2.70
その他	2.53	2.36	2.40
全体	2.84	2.68	2.75

4.7 総合考察

4 章でここまでみてきたように、特定の大学における学部内の複数課程で同一の小学校教員免許を取得した学生の入試区分における免許取得割合、学力、進路状況等に次のような違いがあることがわかった。

- ・選択で小学校教員免許を取得している課程 A において、小学校教員免許を取得している学生の割合は一般選抜での入学者の方が学校推薦型選抜よりも高かった。
- ・平均履修科目数は課程 A の方が課程 B よりも 3 科目ほど多かった。なお、課程 B では小学校免許のみだと少なく、小学校に加えて中高免許を取得する場合には多くなる。

- ・課程 A と課程 B とでは、受験時の評定値には大きな違いはなかったが、大学での GPA では全員が複数免許を取得しており学習意欲が高い課程 A の方がどの入試区分においても高かった。
- ・必修で小学校教員免許を取得している課程 B の学生の方が小学校教員になっている割合が高かった。
- ・ただし、小学校教員になっている学生のうち、正規で採用されている割合は課程 A の方が高かった。
- ・進路先ごとでの課程別の評定値では小学校と幼稚園で課程 A、それ以外は課程 B の方が高いが、GPA ではすべて課程 A の方が高かった。

これらを踏まえ、受験生に対して、履修科目数の違い、小学校教員になっている割合や正規採用されている割合などの課程による違いを示すことで、より適切に課程を選んだ受験が期待できる。

なお、免許を多く取得する学生の学習意欲が高いということから、課程 A の方が GPA が高いと分析しているが、本研究での小学校免許取得可能な課程は、課程 A が選択で取得するのに対して、課程 B では必修で取得することから、選択する意志のあることで学習意欲が高いという可能性についての検討はできていない。また、課程 A と課程 B との比較のみでなく、課程 B を小学校のみの取得者と幼稚園や中高免許取得者として分けて比較するのも今後の課題である。

5 まとめ

同じ大学の学部内にある複数課程で同一の小学校教員免許が取得できる状況において、それぞれの学生の学力や進路状況等に違いがあることがわかった。受験を考えている高校生の中に、同一免許が取得できる二つの課程があることで、どちらを受験しようかを迷っていることがある。その際に、単にどちらの課程でも小学校教員免許が取得できるだけでなく、大学での必修科目数等の履修科目数の違いや、卒業後の進路状況の違いがあることを説明することで、より適切に課程を選んだ受験が期待できる。

今回の結果を踏まえ、入学後に学生の意識調査を行うこと等による更なる分析を検討したい。

注

- 1) 初等中等教育専修では、2年次編入学定員2名と3年次編入学定員3名とがあり、定員以外に他学部からの転学部もある。また、両専修間の転専修で入ってくる学生も若干いる。
- 2) 課程 A では保育士と幼稚園教員免許の取得に必要な科目の履修要件を必修としているが、卒業要件としているのは幼稚園教員免許のみである。そのため、例外的に保育士免許を取

得していない卒業生がいる。課程 B は小学校教員免許の科目の履修要件が必修で、卒業要件も小学校教員免許である。

- 3) 併設校制推薦入試は調査対象大学の併設高等学校からの推薦枠による入試である。
- 4) 2020年度入試までは「センター利用入試 A」として実施していたが、2021年度入試からは「大学入学共通テスト利用入試 A」としたような名称の変更や、入試区分ごとに募集人数の若干の変更がこれまでに何度か行われている。
- 5) 課程 B においては「保育士」資格が取得できないにもかかわらず進路先に「保育士」がいるのは、大学の課程とは別に年2回実施される「保育士試験」で合格している学生がいるからである。

参考文献

- 深谷和義・小杉裕子 (2023). 「私立大学教育学部における一括募集入試入学者の取得教員免許ごとの特徴」『大学入試研究ジャーナル』 **33**, 212-218.
- 深谷和義・小杉裕子 (2024). 「教育学部保育士養成課程において小学校教員免許等をあわせて取得した学生の特徴」『大学入試研究ジャーナル』 **34**, 260-266.
- 石井秀宗 (2014). 「推薦及び一般入試の受験者層の推移に関する検討」『大学入試研究ジャーナル』 **24**, 35-40.
- 小松俊朗 (2011). 「入試・コースと学内成績の相関に見る教育学科の動向」『教育諸学研究』神戸女子大学文学部教育学科, **25**, 67-83.
- 文部科学省 (2022). 「令和4年4月1日現在の教員免許状を取得できる大学」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/1286948.htm (2024年1月25日).
- 文部科学省 (2023). 「令和3年度教員免許状授与件数等調査結果について」文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1413991_00005.html (2024年2月5日).
- 竹内聖彦 (2019). 「私立大学教員養成学部における入試区分と卒業後の進路との関連」『大学入試研究ジャーナル』 **29**, 23-28.